

糸魚川市が目指すこれからのまちづくり

総合計画ダイジェスト版(本誌)について

この度、令和4年度からスタートする第3次糸魚川市総合計画を策定しました。

総合計画の概要を市民の皆様にお知らせするため、このダイジェストでは、計画の大まかな内容をピックアップして紹介しています。

本誌をご覧ください、これからのまちづくりについてみんなで一緒に考えてみませんか？



⇒ 詳しい内容については、本編である「第3次糸魚川市総合計画」に記載してありますので、より詳しくお知りになりたい方は、そちらもご覧ください。「第3次糸魚川市総合計画」は、糸魚川市役所、能生・青海事務所、図書館、地区公民館に配置されているほか、糸魚川市のホームページでもご覧いただけます。

第3次糸魚川市総合計画



総合計画は、まちづくりの道しるべ！

糸魚川市がどんなまちを目指して、どのようなまちづくりを進めていくのか。

それを明らかにして、市民や事業者の皆さんとともにまちづくりを進めていくための指針。それが総合計画です。

第3次糸魚川市総合計画

オール糸魚川でまちづくりを進めましょう！

まちづくりは、糸魚川で暮らす全ての人をはじめとして、事業者や地域と行政が力を合わせて取り組むことが大切です。

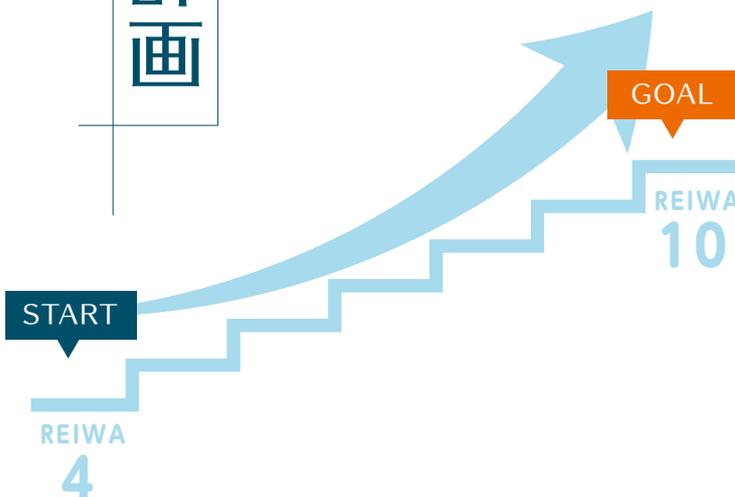
皆さんもこれからの糸魚川をどのようなまちにしたいか想像してみてください。

「糸魚川に住んでいてよかった」
「これからも糸魚川に住み続けたい」

市民の誰もが幸せを感じられるまちを目指し、オール糸魚川でこれからのまちづくりを進めましょう！

計画の期間は？

令和4年度からスタートし、令和10年度を目標年度とする7年間の計画です。



SDGsは世界みんなの共通目標

SDGsは、世界が直面するさまざまな問題に対し、世界の国々が一丸となって取り組むための目標で、令和12年(2030年)までに「誰一人取り残さない」社会の実現に向けて、17のゴールとそれを実現するための具体的な169のターゲットが示されています。

第3次総合計画では、持続可能なまちづくりに向けてSDGsの視点を取り入れるとともに、各施策とSDGsの目標を関連付けて施策を展開することで、SDGsの推進を図ります。

※SDGsは、Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)の略称で、「エス・ディー・ジーズ」と読みます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



ジオパーク×SDGs

～持続可能なまちづくりに向けて～

【ジオパーク活動の3要素】



未来の世代のニーズを損なうことなく、現在のニーズを満たす開発を実現する

糸魚川市がこれまで進めてきたジオパーク活動も「持続可能な開発」「教育」「保全」が活動の柱で、目指す方向はSDGsと同じです。

糸魚川市では、ジオパーク活動を通じて、SDGsの目標達成に向けた取組を進めます。



地域の貴重な自然・文化を学び、地球と人間のつながりを知る

地域の地形地質・自然・文化遺産を守る

私たちの暮らしとSDGs

SDGsという遠い世界のこのように感じるかもしれませんが、
私たちの身近なところにも目標に貢献できる行動やすでに取組が始まっていることがあります。
毎日の暮らしの中で、SDGsに関心を持ち、自分にできることから始めてみませんか。



SDGsに貢献
サステナブル※な循環型
社会を支える姫川港

地方港湾として
取扱貨物量日本一！※

⇒ 姫川港には広域的なリサイクルの拠点「リサイクルポート」としての役割があります。
リサイクルポートとは、各地で発生した廃棄物を資源として受け入れている港のことです。姫川港で荷揚げされた廃棄物は、市内の工場ではセメント製造のための資源として有効活用されています。
しかも、製造されたセメントは再び姫川港から各地へ出荷され、ほぼ完璧なゼロエミッション※のシステムが構築されています。

※サステナブル：持続可能
※令和2年国土交通省調べ
※ゼロエミッション：エミッション（廃棄物）をゼロにする取組



ごみの処理に
使われるお金は
年間約7億円※

毎年、市民一人あたり
約17,500円が使われています

⇒ 快適な毎日の生活を支えるためには、ごみ処理は欠かせませんが、ごみ処理にはたくさんの経費がかかります。
SDGsが掲げる持続可能な社会を実現するためにもごみの減量は必須の課題です。**ごみの減量とごみの処理費削減のため、私たち一人ひとりにできることは何でしょう。**
ちょっと考えてみませんか？

※令和4年度予算額



市民の生活を守る
公共交通

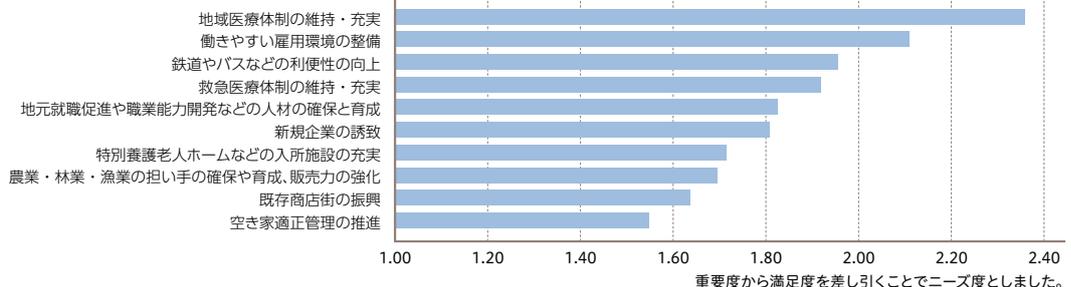
広大な市域を結ぶ
交通ネットワーク

⇒ 糸魚川市の面積は東京23区よりも広い750km²。海岸線も45kmあります。そんな広い市内を結ぶ市道の総延長はなんと840km。直線にすると糸魚川から北海道までを結ぶ距離があります。道路は、市民生活や地域の経済活動に欠かせない大切なインフラです。これからも、市民の皆さんが安心して通行できるよう、また、持続可能な地域の発展のため、快適で便利な道路網の整備・維持管理が必要です。
それとあわせて、バスや鉄道といった公共交通も「誰一人取り残さない」社会の実現のために、なくてはならない移動手段であり、とても重要な存在です。**マイカーは便利ですが、環境にも優しく、安全で快適に移動できる公共交通を利用してみませんか？**

市民アンケートの結果から

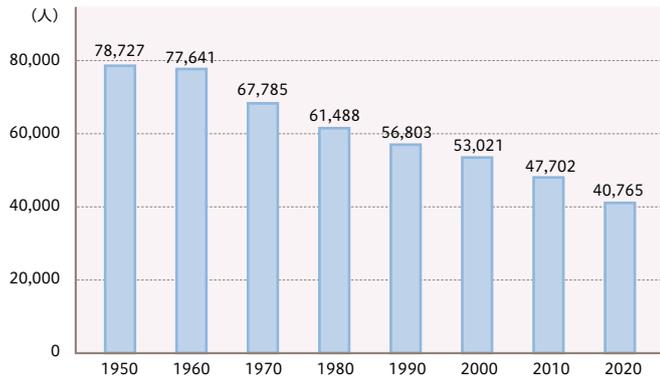
令和2年10月
第3次総合計画策定に
関する市民アンケートより

市民ニーズの高い項目トップ10 (全72項目中)



糸魚川の現在

糸魚川のいまを知って、これからのまちのことをもっと身近に考えよう。



人口 **40,765人**※

ピーク時の半分になりました。

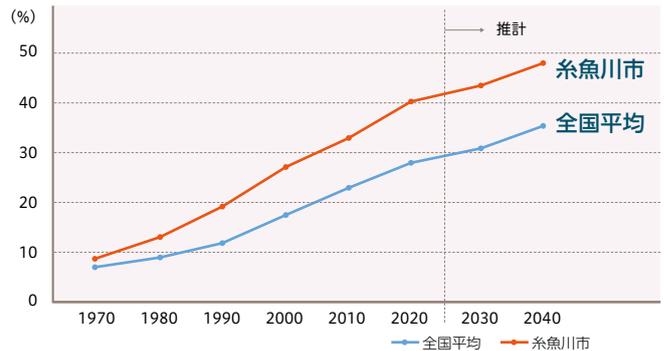
糸魚川市の人口は、昭和25年(1950年)の78,727人をピークに減少が続いています。

※令和2年国勢調査

高齢化率 40%

全国平均より20年早いペースで高齢化が進んでいます。

令和2年(2020年)の国勢調査の結果で、糸魚川市の高齢化率は40.0%でした。糸魚川市では、全国平均より約20年早いペースで高齢化が進んでいます。

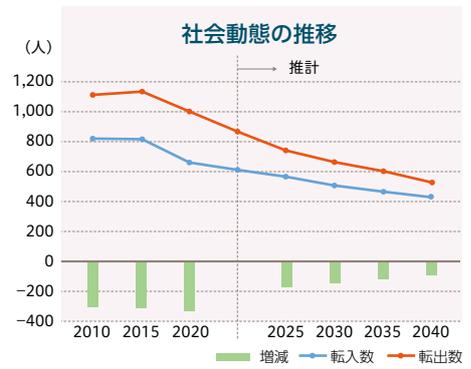


※資料：国勢調査(2030年以降は、国立社会保障人口問題研究所の推計に基づく値)

社会減 ⇒ 自然減

人口減少が加速しています

かつて糸魚川市の人口減少は市外に転出する人が転入してくる人よりも多い「社会減」が主な要因でした。今も就職や進学による転出で社会減は続いています。市町合併により新糸魚川市が誕生した平成17年(2005年)以降は、生まれてくる子どもの数よりも亡くなる方の数が上回る「自然減」による減少が一番の要因となっています。



※新潟県人口移動調査総括表

糸魚川市の人口の状況

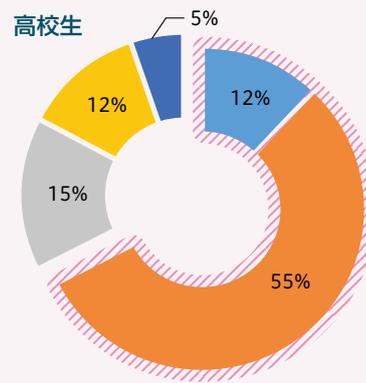
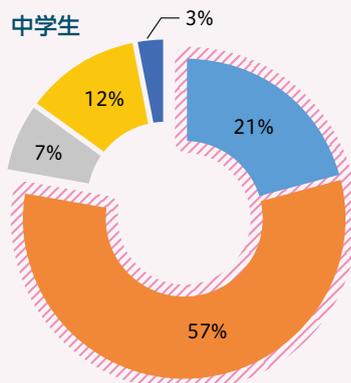
今、糸魚川市では2日に1人の割合で子どもが生まれるのに対して、毎日2人の方が亡くなっており、自然減により毎年500人近く人口が減少しています。少子高齢化が進んでいることから、自然減の状況は、今後しばらくの間、続くものと予測されています。

一方、転出入の状況は年によって差がありますが、転出超過により、毎年300人前後の市民が市外に流出している状況です。今後、人口減少に伴い、転出入する人の総数が減ることから、減少幅は縮小する見込みですが、社会減の状況は続くものと予測されています。

糸魚川市を好きだと 思っている 中高生の割合

令和2年10月 第3次総合計画策定に関する
中学生・高校生アンケートより

⇒ 中学生の約8割、高校生の約7割が糸魚川に愛着を抱いています。これからも、体験や学習活動を通して、ふるさと糸魚川への愛着を高める取組を進めます。

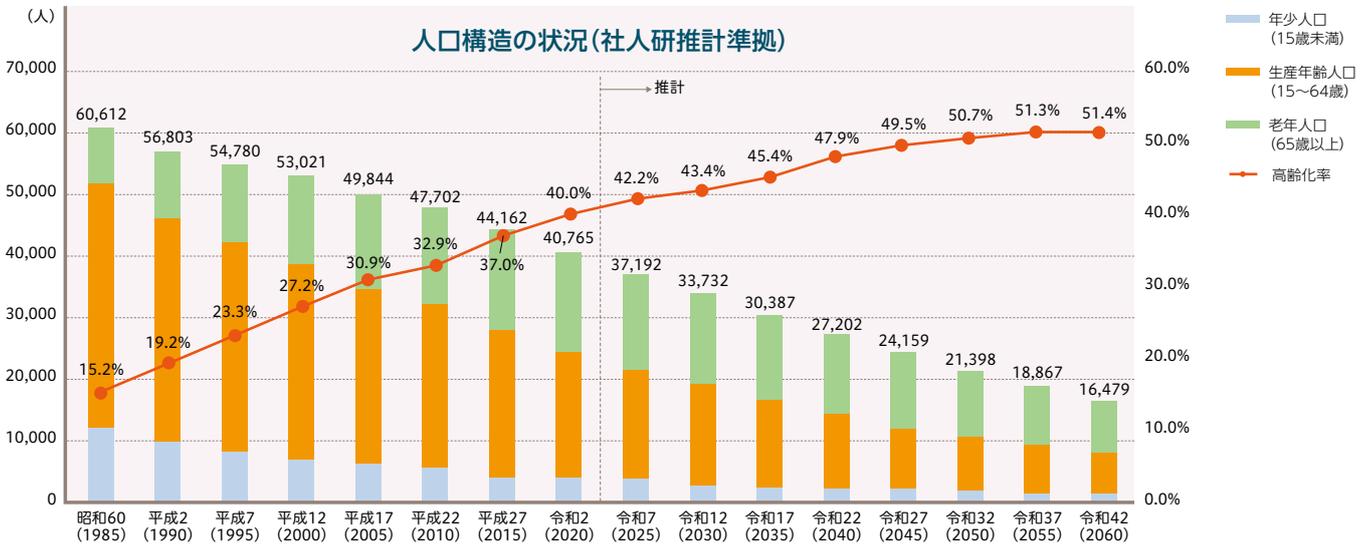


■ 大好き
■ どちらかというと好き
■ どちらでもない
■ あまり好きではない
■ 好きではない

人口の将来展望

～これからの人口の推移～

今後さらに少子高齢化が進み、まちの人口は減少していきます。



日本全体で少子高齢化や人口減少が問題となっていますが、糸魚川市では、国の平均を上回る勢いで少子高齢化と人口減少が進んでいます。

これから約20年後の2040年には、今より1万人以上減少し、人口が約27,000人になると推計されています。また、高齢化率も上昇し、市民の2人に1人が65歳以上になると見込まれています。

そのような状況にあっても

糸魚川市が持続可能なまちであり続けるために

子ども

若者

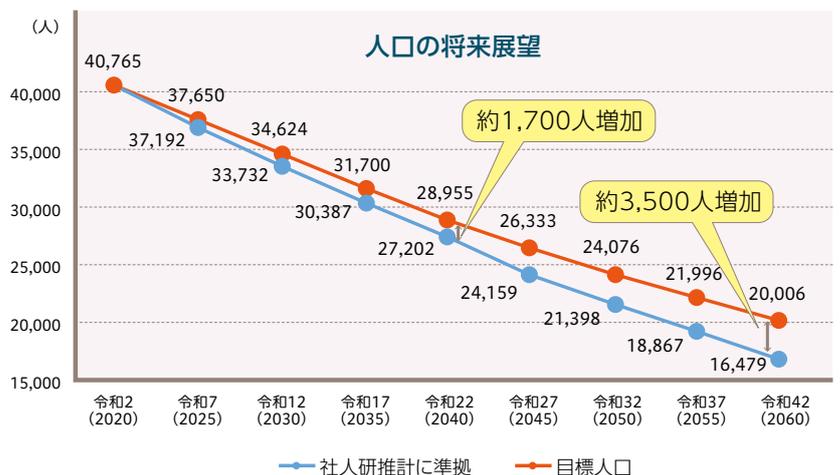
元気な高齢者

人口減少は静かなる危機

人口減少の影響は、毎日の暮らしの中では実感しにくいのですが、地域経済の規模が小さくなることでお店や働く場所が減ったり、生活に必要な医療や公共交通といったまちの機能の維持が困難になったりと、将来的には日常の暮らしに大きな影響が出てくるかもしれません。

しかし、人口減少は糸魚川市だけの問題ではなく、日本全体でこれまでどこの国も経験したことの無いスピードで人口減少・少子高齢化が進んでいます。

上記を増やす取組により、年齢バランスの取れた人口構造にするとともに、人口の減少スピードを緩やかにしていきます。

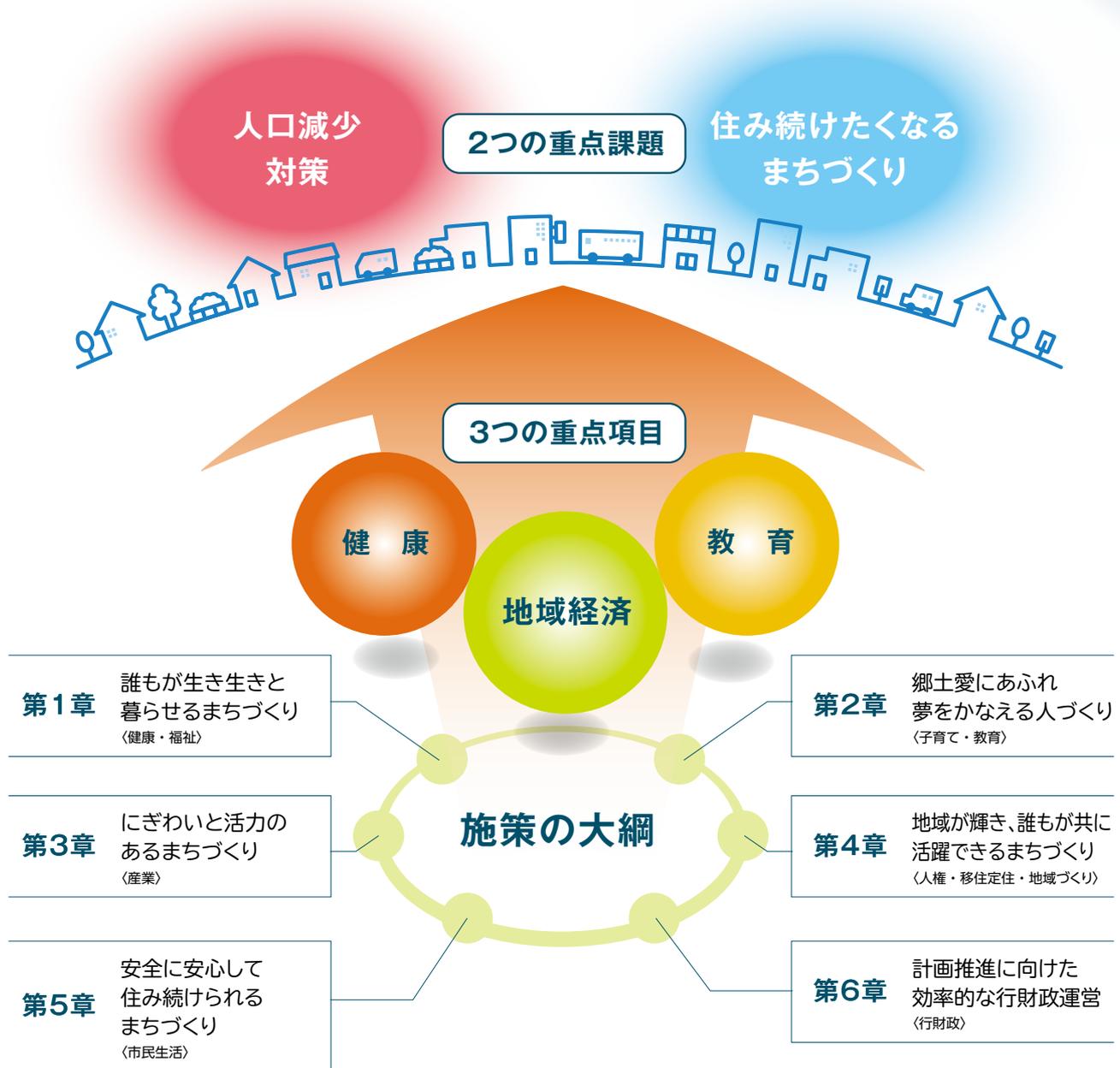


みどり
翠の交流都市 さわやか すこやか 輝きのまち

持続可能なまちづくり

第3次糸魚川市総合計画の推進に当たっては、目指すまちの将来像「翠の交流都市 さわやか すこやか 輝きのまち」の実現を目指し、市民や地域、事業者等と行政が共に考え、共に行動する「協働」の姿勢で取り組む必要があります。

その上で、市民の誰もが「安全に安心して住み続けられるまちづくり」と健全で安定した「計画推進に向けた行財政運営」を基盤として、「持続可能なまちづくり」を基本指針に、6つの分野ごとに取り組むべき施策の方向と、分野横断的に取り組む3つの重点項目の取組を推進することで、「人口減少対策」と「住み続けたくなるまちづくり」の重点課題に対応し、将来像の実現を図ります。



目指すまちのイメージ

「翠の交流都市」

「糸魚川に住んでよかった」「糸魚川に住み続けたい」と思える魅力あるまちであり続けるために

第3次総合計画では、持続可能なまちづくりを進めていくため、「人口減少対策」と「住み続けたいまちづくり」を重点課題として捉え、市民の誰もが幸せを感じられるまちを目指します。



糸魚川で
チャレンジ!

若者の交流や
出会いがある



教育環境が
充実している



働く場がある



安心して
出産ができる

人口減少対策

みんなで
やろうよ!

自然の中で
子育て
したい!



安心して
子育てができる



多様な人材が
定着する

糸魚川が
大好き!



郷土愛にあふれた
子どもたち



効率的・
機能的なまち

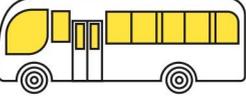
Itoiga

さわやか すこやか 輝きのまち」

誰もが健康に
生き生きと
暮らしている



コミュニティ活動が
活発

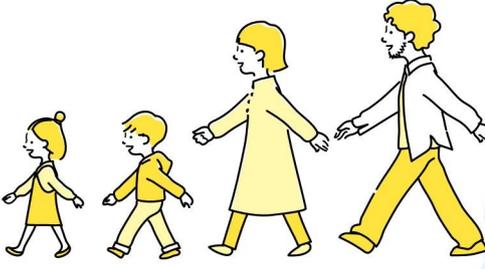


バスや鉄道が
便利

おいしい
お米が
とれたよ



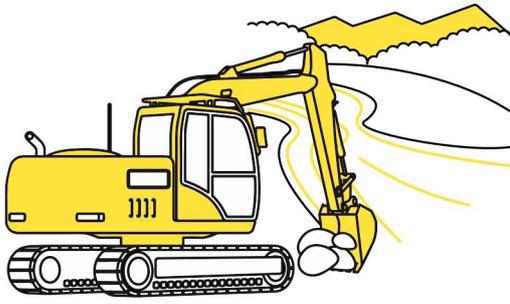
安心して医療や
介護が受けられる



住み続けたくなる まちづくり



農林水産業が盛ん



災害に
強いまち

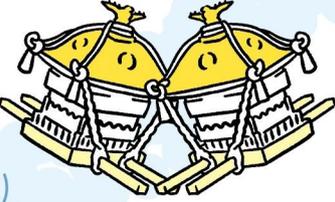


資源が有効に
活用されている



恵まれた自然環境が
守られている

迫力
あるね!



歴史や文化が市民に
よって継承されている



多世代の
交流がある

wa for the future

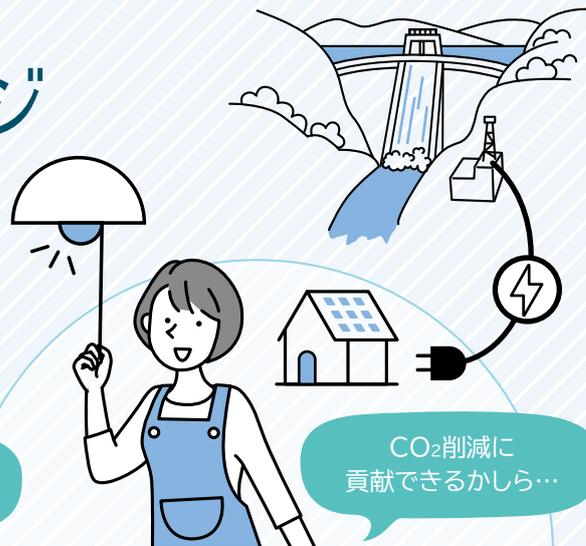
重点項目での新たな取組 糸魚川のチャレンジ

目指すまちづくりの実現のため、
「健康」「地域経済」「教育」の3つを重点項目として、課題の克服に向けてチャレンジします。
具体的な取組による“目指すまちの姿”をまとめました。



糸魚川市独自の電子地域通貨で
市内でのお買い物が便利に。
また、様々な取組や活動が
ポイントとなり、地域の経済が
元気になっています。

いろんなポイントが
たまってとてもお得



CO₂削減に
貢献できるかしら…

エネルギーの地産地消。
市内で発電した
再生可能エネルギーが
市内で使われています。

地域経済

ITOI

新しいことに
たくさん
出会える!!

糸魚川市のフィールドを
使った教育旅行や
ワーケーションが
行われています。



- ・市内で仕事やお金が循環するまち
- ・市外から人やお金が流れてくる
活力あるまち



自然豊かな
環境で気分も
リフレッシュ

在宅医療について
ご相談ください



遠隔診療や
訪問診療により、
どこに住んでいても適切な
医療を受けることが
できます。

こつこつ続けて
いつまでも
元気で…

健診受診勧奨と個別支援に
取り組むとともに、
フレイル*予防により元気な
高齢者が増えています。



健康

- ・誰もが健康でいつまでも生き生きと生活できるまち
- ・必要な時に安心して医療を受けることができるまち

発熱は
いつからですか？



子どもが
急に熱を出した
のですが…

子どもの成長段階に応じた
連続性のある切れ目のない
支援と教育で
子どもたちの「自立」が
促されています。

青年期
(13~18歳)



地域の大人とのふれあいによる社会の一員として自立する力の育成

学童期
(7~12歳)



集団での体験活動を通じて実社会への興味・関心のきっかけづくり

幼児期
(0~6歳)



親子のふれあいによる愛着形成

学校や地域、
産業界との連携により
多様な学びや経験を通じた
自己実現が図られています。

ICTや英語教育等により
新たな交流が
生まれています。



Hello

教育

いろいろな
経験を通じて
夢を実現しました！



糸魚川には魅力的な
企業がいっぱい！

- ・変わり続ける社会に対応して未来を切り拓く力を持った人づくり

*フレイル：加齢や疾病により、心身の活力が低下し、生活機能障害、要介護状態などの危険性が高くなった状態

6つの将来目標

将来目標

01

誰もが生き生きと
暮らせるまちづくり

- 健康づくりの推進
- 安心できる医療体制の維持
- 高齢者への支援
- 地域で支え合う福祉の推進



保健や医療、福祉が連携した地域医療・福祉体制の充実を図るとともに、家族や地域による支え合いや助け合いの体制づくりに努めます。また、市民の健康増進や生きがいくりの充実を図ることで、こころと体の健康を維持し、人生100年時代を見据えた「誰もが生き生きと暮らせるまちづくり」を進めます。

将来目標

02

郷土愛にあふれ
夢をかなえる人づくり

- 子どもを産み育てやすい環境の整備
- 0歳から18歳までの子ども一貫教育の推進
- 生涯学習の振興
- 文化の振興



次世代の担い手となる子どもたちが健やかに育ち、多様な学びや経験を通して、自分らしい生き方を実現するための力を育むとともに、すべての市民が地域社会の中で共に学び、共に成長し合う、「郷土愛にあふれ夢をかなえる人づくり」を進めます。

将来目標

03

にぎわいと活力の
あるまちづくり

- 雇用環境の整備と就業支援の強化
- 活力ある産業の振興
- 農林水産業の振興
- 地域資源を活かした魅力の発信



若者、女性などの就業環境の整備を促進します。また、地域資源や交通・物流ネットワークを活用した新たな産業の創出や、商工業及び農林水産業の振興を推進するとともに、観光資源を活用した交流人口の拡大を図り、「にぎわいと活力のあるまちづくり」を進めます。

将来目標

04

地域が輝き、誰もが共に活躍できるまちづくり

- 一人ひとりが尊重される社会の実現
- 地域で活躍する人材の支援
- 自主自立の市民活動の推進



全ての人がお互いを尊重することにより、誰一人取り残さない社会の実現が必要です。また、若者の定着や移住定住の促進、住民が主体となった自主自立の取組を促し、市民・地域・行政が将来を見据え、共に考え、共に行動する協働の取組により、「地域が輝き、誰もが共に活躍できるまちづくり」を進めます。

将来目標

05

安全に安心して住み続けられるまちづくり

- 防災・減災対策の推進
- 安全・安心な市民生活の保護
- 自然・環境の保全と未来への継承
- 暮らしやすい生活基盤の整備



都市基盤の整備とともに市民一人ひとりの環境や防災・防犯に対する意識の醸成を図ります。また、宅地や公園、ガス・上下水道などの住環境や地域の実情やニーズに合った交通基盤の整備を進め、人々が暮らしやすい「安全に安心して住み続けられるまちづくり」を進めます。

将来目標

06

計画推進に向けた効率的な行財政運営

- 行政の電子化・情報化の推進
- 積極的な行政改革
- 健全な行財政運営



持続可能なまちづくりに向けた各種施策を推進するため、健全な行財政運営に努めるとともに、市民との情報共有、まちづくりへの理解や参画につながる効率的、効果的な事業実施に向けた行政改革を推進します。

財政計画

市民の皆様から納めていただいた税金や国・県からの補助金、銀行等からの借入金(借金)などの収入をどのような目的で事業に使うかを見込み、推計したものを財政計画といいます。



市の収入・支出を家計簿に置き換えてみました

〈いといがわ家の1か月〉

令和4年当初予算を30万円とした場合…今後の見通しはどうなるでしょう？

収入項目		令和4年度 当初予算	⇒	令和4～ 10年度の平均
給料	市税など(税金・施設の使用料や財産の貸付など)	9.7万円	1.2	10.9万円
親からの仕送り	地方交付税、地方譲与税など(市の裁量で使える国からの交付金)	11.7万円	▲ 1.8	9.9万円
親からの特別援助	国・県支出金(特定の目的のために交付される国や県からの補助金)	5.2万円	▲ 1.0	4.2万円
貯金切り崩し	繰入金 (積立金からの繰入)	0.8万円	▲ 0.1	0.7万円
借金	市債 (市が長期間借り入れるお金)	2.3万円	▲ 0.4	1.9万円
友人からの返済	貸付金元利収入(市が貸し付けたお金の返済や利息など)	0.3万円	0.1	0.4万円
収入計		① 30.0万円	▲ 2.0	28.0万円

参考：財政計画(一般会計)

〈歳入〉

(単位：百万円)

区分	年度	令和4年度当初予算		計画期間(令和4年度～令和10年度)		
		金額	構成比	金額	構成比	単年度平均
市税		6,769	26.5%	45,515	27.9%	6,502
地方交付税		8,600	33.6%	57,500	35.2%	8,214
国県支出金		4,405	17.2%	24,412	15.0%	3,487
市債		1,960	7.7%	11,247	6.9%	1,607
その他収入		3,846	15.0%	24,610	15.1%	3,516
	地方譲与税等	1,339	5.2%	8,479	5.2%	1,211
	繰入金	724	2.8%	4,366	2.7%	624
	貸付金元利収入	251	1.0%	2,106	1.3%	301
	その他	1,532	6.0%	9,659	5.9%	1,380
合計		25,580	100.0%	163,284	100.0%	23,326

※地方交付税には、臨時財政対策債を含みます

いといがわ家の
家計の特徴

いといがわ家は給料だけでは生活できず、親からの仕送りと特別援助でやりくりしています。また、高齢者や子どもの減少により、医療介護費などが減っていきませんが、老朽化した自宅の増改築や補修費用が増えてきます。自宅の補修については、適切な時期に適切な処置を行う長寿命化対策で、将来の費用負担を減らす必要があります。今後、人口減少等の影響により、給料も親からの仕送りが減ったときに備えて、食費や光熱水費を見直して、節約しなければなりません。

支出項目		令和4年度 当初予算	⇒	令和4～ 10年度の平均
食費	人件費(職員に対する給料や退職金)	5.2万円	0.2	5.4万円
医療介護費	扶助費(高齢者や障害者、子どもの福祉等にかかるお金)	3.4万円	▲ 0.2	3.2万円
借金の返済	公債費(市債の元金及び利子の支払いにかかるお金)	5.6万円	▲ 0.2	5.4万円
光熱水費	物件費(燃料費、委託料、消耗品費、旅費にかかるお金)	5.2万円	▲ 0.3	4.9万円
自宅の増改築・補修費	投資的経費など(道路や学校など施設の新増設や補修にかかるお金)	3.6万円	▲ 1.0	2.6万円
子どもへの仕送り	繰出金(一般会計から特別会計へ支出するお金)	2.3万円	1.7	4万円
友人への援助	補助金等、貸付金など(補助金や市が貸し付けるお金など)	4.7万円	▲ 1.8	2.9万円
支出計		② 30.0万円	▲ 1.6	28.4万円

節約するお金 ③ (収入① - 支出② = 不足するお金③)

0.4万円

〈歳出〉

(単位：百万円)

区分	年 度	令和4年度当初予算		計画期間(令和4年度～令和10年度)		
		金 額	構成比	金 額	構成比	単年度平均
人件費		4,470	17.5%	31,619	19.4%	4,517
扶助費		2,890	11.3%	18,937	11.6%	2,705
公債費		4,745	18.5%	31,772	19.5%	4,539
投資的経費		3,048	11.9%	15,033	9.2%	2,148
その他経費		10,427	40.8%	68,722	42.1%	9,817
	物件費	4,419	17.3%	28,593	17.5%	4,085
	補助費等	2,755	10.8%	9,230	5.7%	1,319
	貸付金	283	1.1%	2,370	1.5%	339
	繰出金	1,994	7.8%	23,231	14.2%	3,319
	その他	976	3.8%	5,298	3.2%	757
経費抑制など調整額		0	0.0%	-2,799	-1.7%	-400
合 計		25,580	100.0%	163,284	100.0%	23,326

※単年度平均は小数第1位を四捨五入しているため、合計が一致しないところがあります。